

# 学校長あいさし

嶺北中学校長 小笠原 幸子

## 『MIRAI ☆ 開拓者の育成』



本山町立嶺北中学校となつてから、十三年目の春を迎えます。令和五年度から三年間の学校教育目標とめざす生徒像については、令和四年度までの三年間で成果が出ていますが、「知」「徳」「体」のすべてで目標を達成しているわけではありませんので、引き続き、学校教育目標は、「MIRAI☆開拓者の育成」、めざす生徒像は、「夢を語り、変化に対応できる人間」を継続することにしました。特に、自己肯定感を向上させることが課題として上げられます。こちらは、自己有用感（自分は社会・人のためになつていふと思う）を上げる施策を講じていかなくてはなりません。

学校経営の基盤は、人権教育です。生徒が安心して学校生活を送られる温かい環境づくりを大切に、全校生徒がよりよい人間関係を築ける体制を学級、学年、学校（生徒支援部）でつくりまします。

重点目標は、「確かな学力の向上」と「自自力（柔軟で強靱な心）の育成」の二つです。

「確かな学力の向上」の手法のひとつは、「中学校組織力向上のための実践研究事業」における教科連携型です。教科の枠を超えて、経験年数や年代も異なる教職員が三つのチームに分かれ、互いに授業を見合い、「主体的・対話的で深い学び」の実現ができていくかどうか、チームで助言しあい、指導力向上をめざします。教員の指導力向上が生徒の学力向上につながっていくからです。

また、（研究の二部会の一つである）学力向上部の対策の一つである「課題学習プリント」や「中学生版小社会」ぺらっと」を活用した言語能力の育成は、国語力の「読むこと」「書くこと」の力を確実につけています。

「自自力の育成」については、学校経営の核に位置付けている総合的な学習の時間が重要なポイントになります。教科等で付けた力を総合的な学習の時間で発揮する。つまり、これが学校教育目標達成の出口（ゴール）となるわけです。

本山町は、令和三年度から二年間、高知県教育委員会から「中山間地域における特色ある学校づくり推進事業」の研究指定を受け、小中が連携し、総合的な学習の時間の九年間のカリキュラムを実施・検証しました。令和五年度からは、保育も含めた十五年間を見通して、本山町の生徒に付けたい資質・能力「嶺北ACT」を付け、次世代の特色ある学校づくりに向けて、学校と地域との連携・協働によりチーム学校として教育活動を充実させ

るとともに、社会に開かれた教育課程の実現をめざします。

本山町の教育理念は「郷土に誇りを持ち 心豊かで たくましい人づくり」です。地域や保護者の皆様に信頼され愛される学校になるよう教職員一同励んでまいりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

